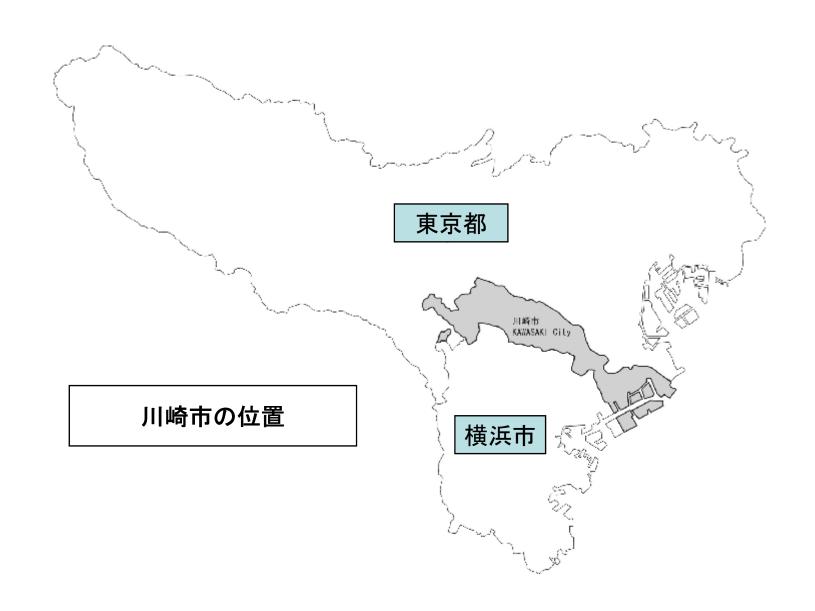


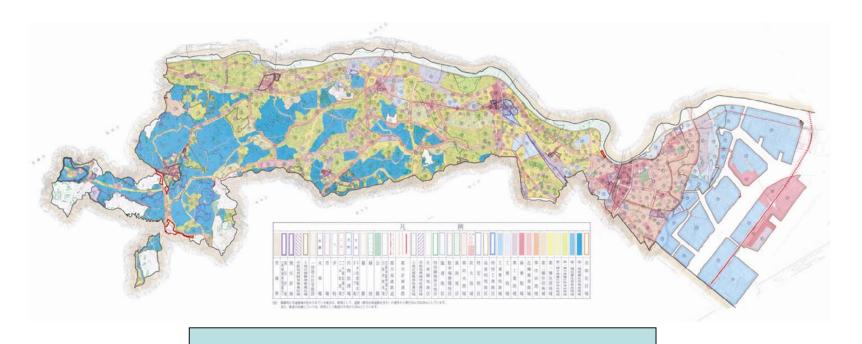




# 川崎市における生物多様性の保全に向けた取り組み

川崎市環境局





市域の約88%が市街化区域

#### 緑の概況

市全体では、東京都、横浜市に隣接し、市域の大半が市街化区域であることなどにより土地需要が旺盛、また樹林地を所有する地権者の相続問題等に伴う土地利用の転換や需要が高いことから、樹林地や農地の減少傾向がみられます。

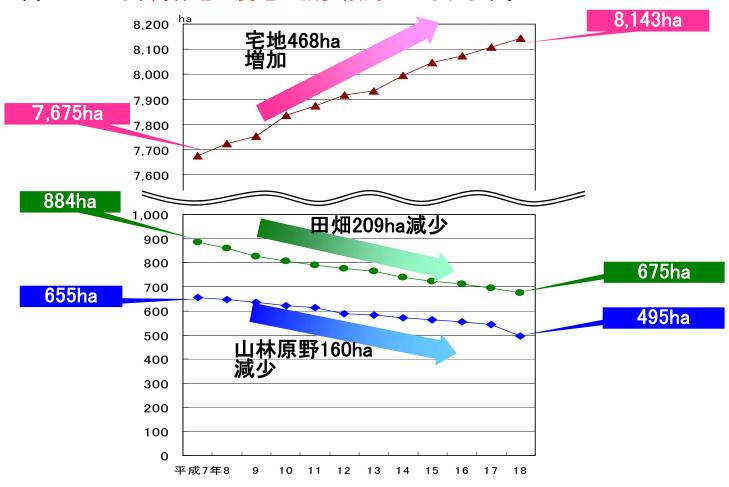
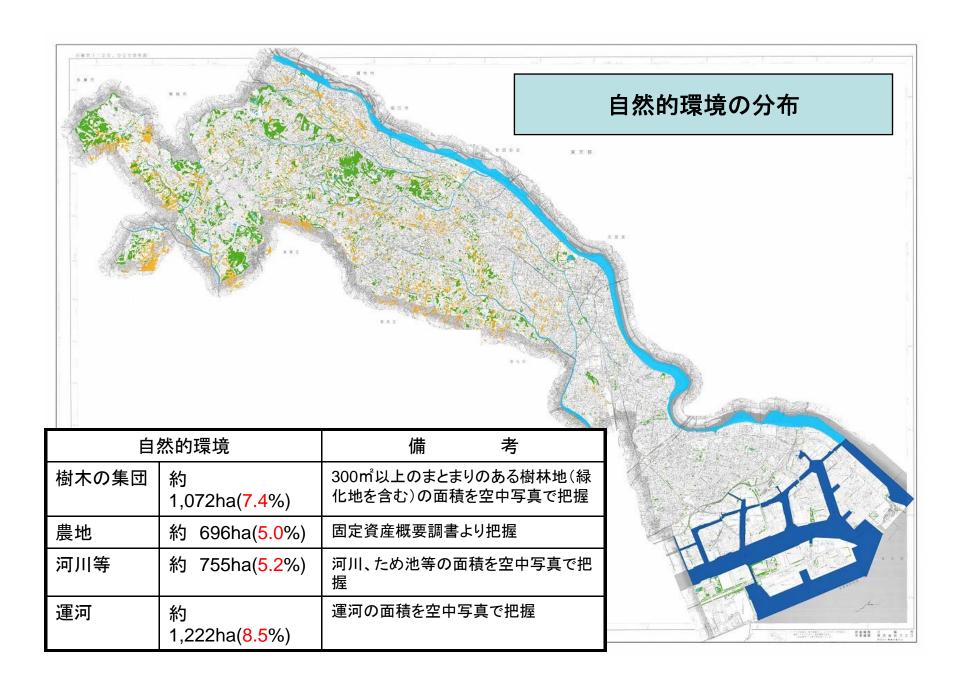


図 樹林地、農地、宅地面積の推移



## 川崎市における生物多様性の現状

## 【第1の危機】関連

開発事業等によって緑地等生物の生息空間が失われつつある。

## 【第2の危機】関連

農業人口の高齢化・減少により、生物の生息空間である農地や里地・里山の減少が続いていることから、生物多様性に影響を与えている。

## 【第3の危機】関連

海外から持ち込まれたペット等の放棄による外来生物の侵入は、生態系への撹乱につながることを懸念している。

#### 【地球温暖化による危機】関連

地球温暖化の観点から生物の生息域や時期に影響が見られる。



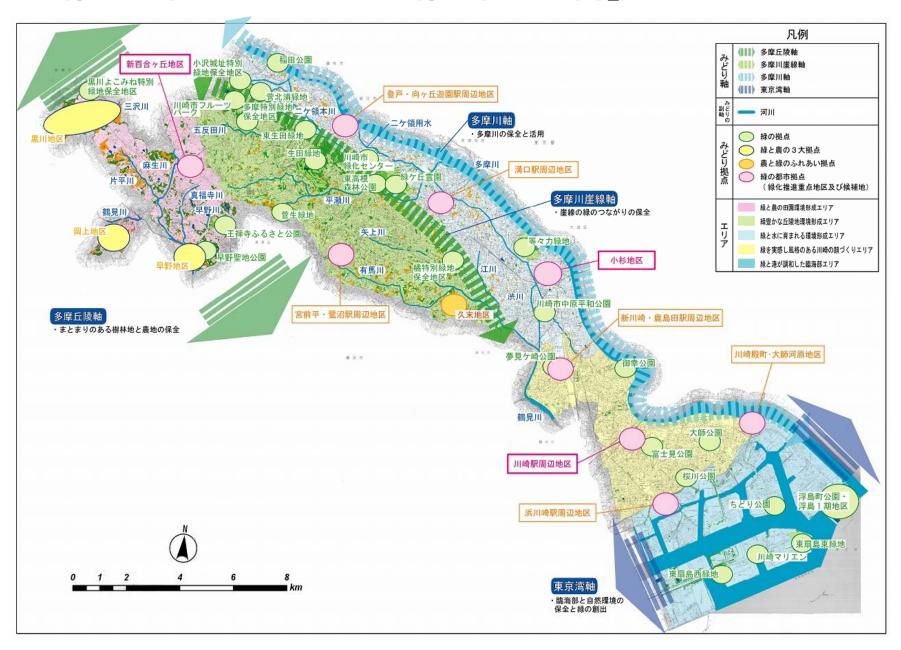


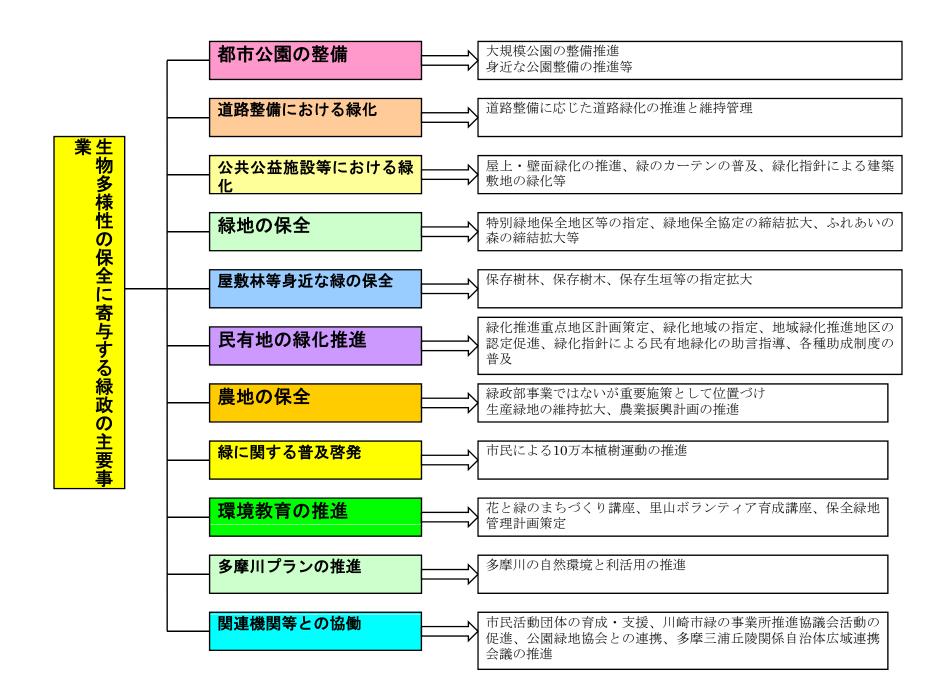
## 川崎市における生物多様性に関連する施策





## ●緑の基本計画における「緑の将来像図」

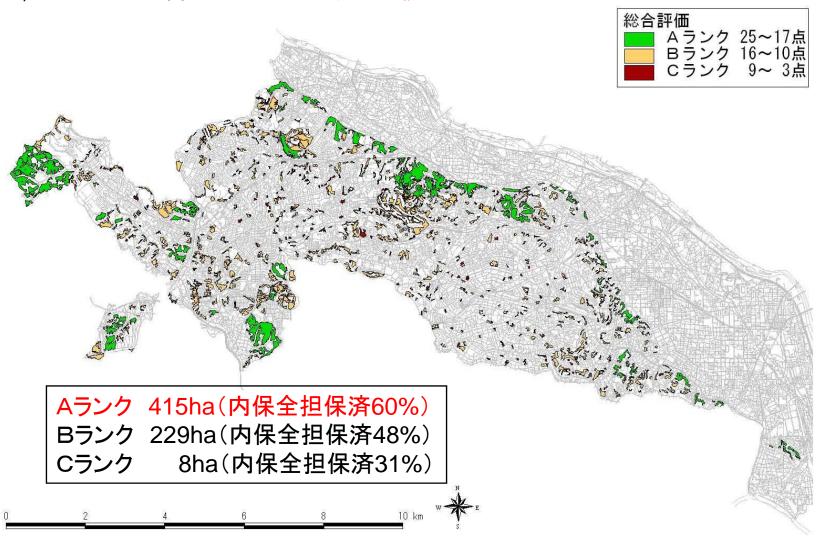




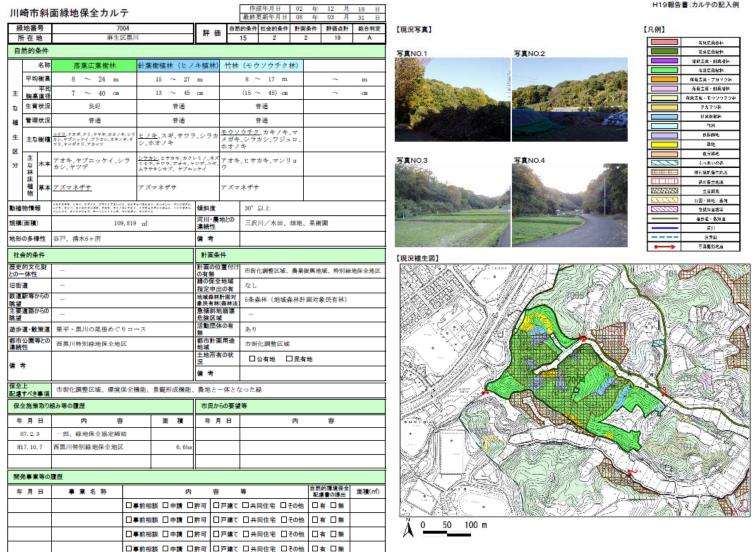
# 斜面緑地総合評価

※平成20年3月末時点

1,000m<sup>3</sup>以上の樹林地:653ha(市域面積の5%)

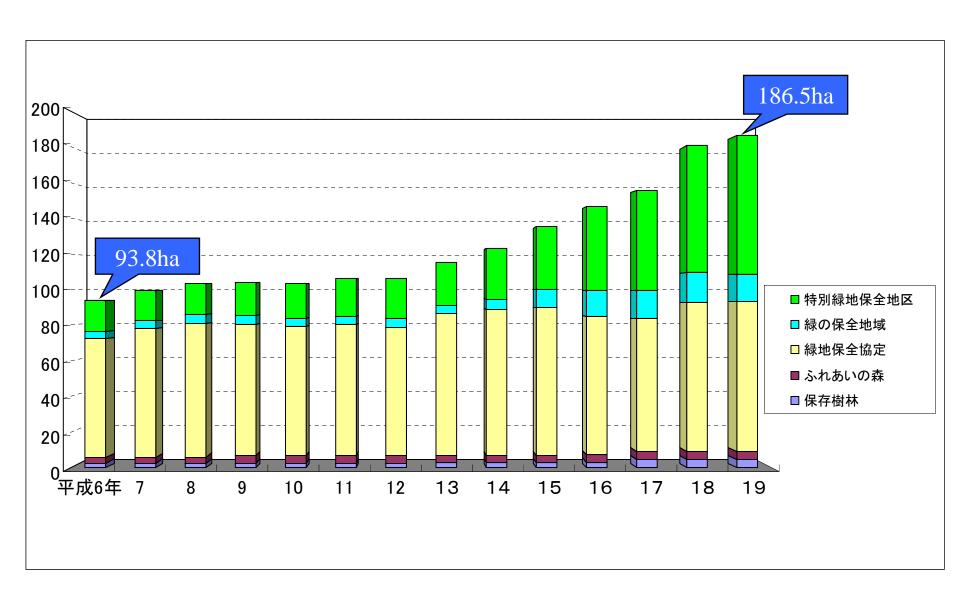


#### 緑地保全カルテの作成:1000㎡以上の緑地の状況を全てデータ化。



# 緑地保全の実績

※平成20年3月末時点





## 保全管理計画の作成:保全緑地における動植物調査と管理方針づくり



#### 保全管理計画の作成による持続可能な環境づくり



## 市民参加による森づくり (市民植樹運動の実践)



# 川崎市における「生物多様性の保全」 に向けた主な課題

- 生物多様性に対する行政、市民の認知度が低い。
- 都市部において、何をもって生物の多様性とするか。取り組みの手法、目標の設定等
- 市街化の進行による自然地(樹林地・農地等)の減少
- 生物多様性の保全を取り扱う範囲が広く、総合的担当窓口の設置が必要。(環境部門、建設部門)
- ・施策推進の進行管理、成果、効果の見極め方
- 固有種の保全までは踏み切れない。
- 特定外来生物の管理手法。市に直接の窓口がない。

# 今後の生物多様性の保全に向けた 主な取り組み

## I 生物多様性「川崎地域戦略」の策定

川崎市における生物多様性の今後の取組のあり方について川崎地域戦略の策定を行います。

## ①現状把握(平成22年度)

- これまで実施済みの生息環境調査の結果を整理
- 生息環境の追加調査を周辺住民等多様な主体の 参加で実施

## ②検討(平成23年度)

•庁内検討会議や専門家等による調査•検討

## ③審議·策定(平成24年度)

- 環境審議会の審議を経て策定

## Ⅱ生物多様性関連施策の充実・強化

■生物多様性に関連する既存施策の整理

## (平成22年度)

⇒川崎地域戦略への位置付

(関連施策事業の例)

- ○緑地の保全・育成
- 〇環境学習の推進

- 〇地域緑化の推進
- 〇公園の整備及び管理
- 〇農業の振興(農地保全、環境保全型農業等)
- 〇河川の管理 等

## Ⅲ 普及啓発

■動植物の生息・生育環境保全の手引きの作成・活用(平成20年度・21年度)

■生物多様性フォーラムの実施 (平成22年度)

■川崎いきものマップの作成・公開 (平成23年度)

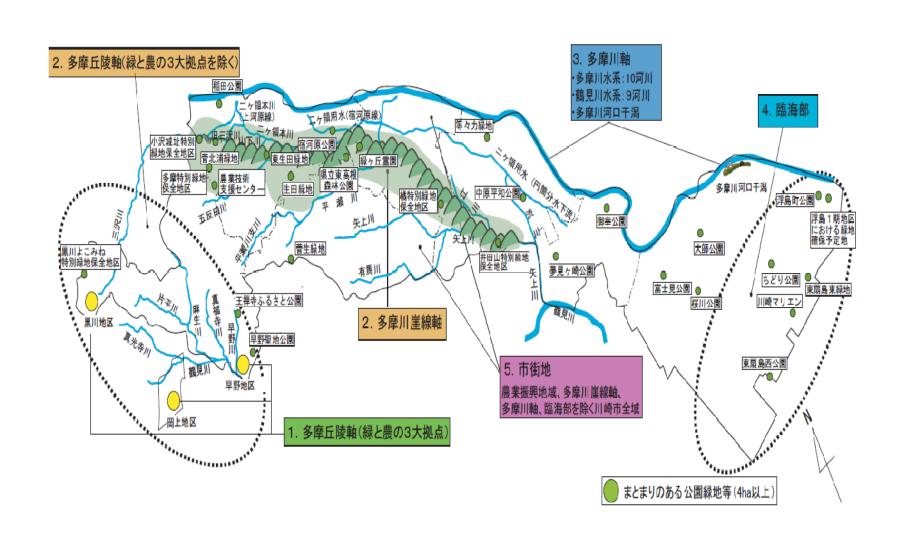
# 平成20年度作成普及啓発

#### 動植物の生息・生育環境保全の手引き

~ いきもののすみかを育くもう ~



## 細長い市域は、海、川、市街地、崖線、里山等多彩な緑が存在



## 多摩丘陵地域における生物多様性の将来像



## 市街地における生物多様性の将来像





### 水辺(河川)周辺地域における生物多様性 の将来像



## 都心部、臨海部の生物多様性の将来像

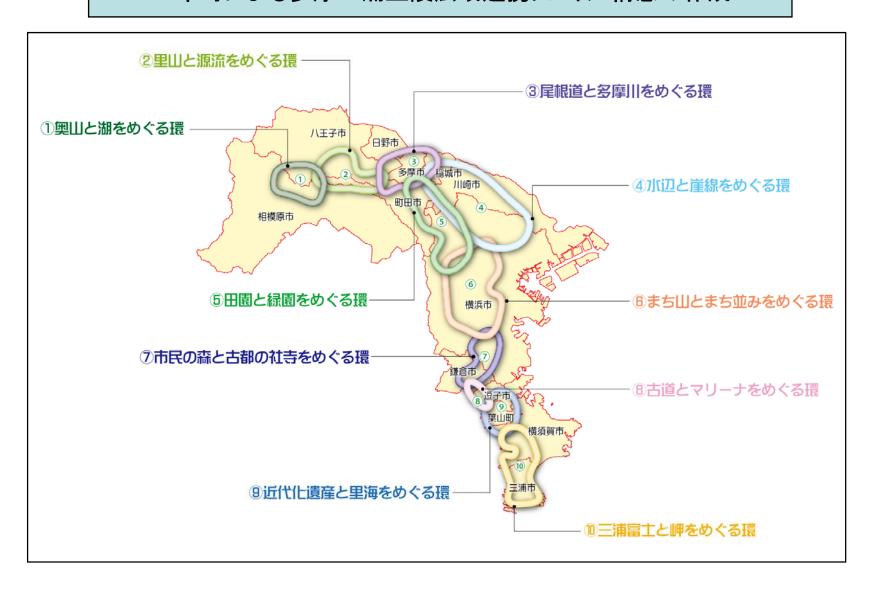




#### 多摩三浦丘陵自治体広域連携



#### 13市町による多摩三浦丘陵広域連携トレイル構想の作成



## 多摩三浦丘陵広域連携シンポジウム(8月1日 川崎市開催)

